

『ソフト施策による鳥取県の鉄道アクセス改善に関する調査』のポイント

2022年6月9日
(株)ライトレール

国鉄改革から35年が経過し、様々な情勢から、地方鉄道のあるべき姿を真摯に検討し、それを実践すべき局面を迎えました。国が鉄道を中心とした地域交通のあるべき姿を描き、制度を整え、予算を確保すると同時に、平井知事が全国知事会長を務める鳥取県においては、地域と事業者が協働して最適な地域交通体系を共に創りあげる先進モデルを早期に実践し、全国のトップランナーになりたいものです。

本調査では、鳥取県に関わる鉄道の骨格ルートとなる2つの陰陽連絡（智頭急行ルートと伯備線ルート）と鳥取 - 米子 - 出雲市に関して、以下のような最近の情勢を踏まえた三方よしとなる改善提案をまとめました。

1. 地方鉄道に関わる最近の情勢

- ・ JR西はコロナ禍により財務が悪化し地方鉄道を減便、輸送密度の低い線区の経営数値を開示
- ・ 国は地域交通のあり方を検討し、利便向上や最新技術導入による刷新・再設計を指向
- ・ 自民党は「公共交通ネットワーク再構築議連」を立上げ、国の主体的な関わりを訴求
- ・ 全国知事会は議連へ国主導による地方鉄道の維持（改善・発展へ発想転換すべき）を要請

2. 骨格ルートの終日1時間おき化と運賃・料金の適正化

- ・ 智頭急行ルート陰陽連絡と新幹線の接続を相生に改め、姫路 - 相生 - 鳥取 - 米子1時間おき化
- ・ 伯備線ルート陰陽連絡の岡山 - 米子 - 出雲市1時間おき復活、米子で鳥取方面と短時間接続
- ・ 陰陽連絡を在来線直通から新幹線乗継ぎに改めても運賃・料金は現行以下に
- ・ 運賃値上げかつ特急料金廃止で特急利用しやすくかつ収益確保、立席限定の格安サービスも

3. 三方よしによる早期実現

- ・ 売り手よし：鉄道事業者は売上増かつ（一部区間の運転を取止めて）経費増なしで収支改善
- ・ 買い手よし：鉄道利用者は所要時間短縮・乗車チャンス拡大・価格適正化により利便向上
- ・ 世間よし：地域は交通利便向上により生活改善、ビジネス活発化、観光振興

付録の時刻表案と現行を比べることで、乗換えは発生するものの大幅に利便向上することが分かります。相生の出発・到着とも、新幹線「のぞみ」の新大阪・東京方面と広島・博多方面の両方と丁度良い時間で接続します。

本提案は、条例を作ることも、国の新たな制度を作ることも、鉄道の設備を大幅改良することも、車両を増備することも、要員を増員することもなく実行できます。理想的には、本提案を鳥取県の総意とし、兵庫・岡山県とも調整の上、2023年3月のダイヤ改正にて実行したいものです。

今回の骨格ルート充実に加え、付随するローカル列車・浜坂方面・津山方面・境線・若桜鉄道、さらにバス路線を充実させることで、鳥取県全域の地域公共交通を高利便かつ持続可能なものとなります。